

# 跡見学園女子大学 学報



**本**学は平成14年度のマネジメント学部創設時よりインターンシップを重要視し、正規の教育課程の中に組み込んで必修化してまいりました。昨今では、いろいろな大学がインターンシップを実施するようになり、参加する学生数も15年前とは比べものにならないほど増えてきております。

そのような状況の中、今年も8・9月には、各企業・自治体などのご協力のもと、本学でも多くの学生がインターンシップに参加しました。現在、インターンシップについては、マネジメント学部と観光コミュニティ学部が教育課程の中に2年次必修として組み込んでおり、教育課程に組み込まれていない文学部・心理学部の学生には就職課によるATOMIインターンシップが用意されています。ATOMIインターンシップは学部・学科・学年を問わず参加できるシステムですが、今夏の全参加者121名のうち、文学部の学生は86名に及んでいます。

表紙の写真はこの夏に明治記念館で行われたインターンシップでの一場面です。まず社内でレクチャを受け、配膳などの実習を経験したのち、最終段階ではお客様の前での現場実習を行いました。

今号では、このようなインターンシップの活動に加え、教員の研究活動、学生の活動などを紹介しています。本学でのさまざまな経験が、将来のキャリアプランに大いに役立ついただければと願っています。

## 記事内容

- 今夏！PBL(課題解決型)プログラムが実施されました ..... (2)
- 充実のATOMIインターンシップ ○平成30年度アカデミック・インターンシップの実施報告
- 平成30年度 観光コミュニティ学部学外実習実施報告 ..... (3)
- 国際交流活動の紹介(平成30年度夏期海外研修終了報告) ..... (4)
- ゼミ紹介 ..... (5)
- 跡見花躰記念奨学生表彰 ..... (6)
- 学生会情報 ○第51回紫祭「秋桜」開催 ..... (7)
- 平成30年度新規採択「科学研究費補助金にかかる研究内容の概要」 ..... (8)
- 保護者説明会(文京会場・高崎会場)報告 ○名誉教授のご紹介 ..... (9)
- 防災への取り組みについて ○新入生向けに「図書館の利用法」の体験型オリエンテーションを開催
- CLUB NOW ..... (10)
- 平成31年度 入学試験日程 ..... (11)
- 行事予定 ○資料館コレクション ○【新座キャンパス】秋学期から更に充実!! ○編集後記 ..... (12)

## 今夏! PBL(課題解決型)プログラムが実施されました

### 就職部就職課

昨今の就職活動では、「インターンシップの参加」が主に3年生を中心としてもはや当たり前となりましたが、本学ではこの夏のさらなる取り組みとして、企業とタイアップした「課題解決型プログラム“Project Based Learning”(以降PBLプログラム)」を積極的に取り入れ、学生の就業力醸成を図っております。

就職課では、昨年度より3年生を中心としてこのPBLプログラムをスタートし、本年度は新たに、埼玉県補助金事業である「平成30年度 大学生のための県内企業魅力発見事業(課題解決型授業)」をベースとした1・2年生対象のPBLプログラムと、就職課を中心に企画した3年生対象のPBLプログラムを実施しました。

### I. 1・2年生対象「埼玉県 平成30年度 大学生のための県内企業魅力発見事業(課題解決型授業)」

平成30年8月22日(水)～9月26日(水)の期間、1・2年生対象のPBLプログラムが2年生11名、1年生9名の計20名によって行われました。新座キャンパス図書館にて開催され、全6回のプログラムの他、企業見学も実施しました。本プログラムは最終的には正課授業として取り入れることを目的とし、埼玉県の補助金事業として埼玉県内企業「株式会社デサン」と「株式会社ベネッセイキャリア」、そして本学就職課の連携により実現しました。

今回、株式会社デサンから提示された課題は「真の働き方改革を提案せよ」。この課題に対して1・2年生20名が5チームに分かれ、それぞれがチーム一丸となって解決策を考え、同社へ提案をしました。まだ社会人として働いたことのない学生たちですが、この難しい課題と向き合っ、学生ならではの視点・発想で企業へ提案・プレゼンテーションを行いました。

本プログラムを通じて、最初は消極的で質問もあまりできなかった学生が回を重ねるごとに積極的になり、企業の社長へ質問や意見を述べている姿も見られ、学生にとっては非常に充実したプログラムであったと考えます。

今回は文学部の学生が多く参加し、個々の成長も大変感じられました。今後、正課の授業へ取り入れ、多くの学生に成長の機会を与えられるよう推進して参ります。



企業に対し「働き方改革」のプレゼンテーションを行う



企業を訪問し、現状を調査

### II. 3年生対象「株式会社サンエー・ビーディー×跡見学園女子大学 PBLプログラム」

平成30年8月27日(月)～9月25日(火)の期間、3年生対象に全9回のPBLプログラムが実施されました。本年度は就職課が独自にプログラムを立案、ファシリテートし、3年生10名が3チームに分かれ、共通の課題に取り組みました。大手アパレルメーカーである「株式会社サンエー・ビーディー」をパートナー企業として招聘し、同社の会社案内の企画書を作成するというテーマで競い合いました。

本年度のPBLの特徴として、①就職活動に直結するコンテンツの提供、②一歩前に行くことに躊躇する学生へ自信をつけさせる、③企画することの難しさと達成感を感じ取る、以上3点を目標として参加学生は挑みました。

全9回のうち企業とのコンタクトは4回(会社説明会、店舗訪問、中間報告、最終プレゼン)と多く設定することで、参加学生には、より一層リアルな情報収集の機会と、就業する意味を深く感じ取ってもらうことができ、課題に向けた企画立案を進めていく中で、受動から能動への「変化」があったと考えます。

来年度も引き続き、複数の企業様をパートナーとして連携させていただき、学生の就業力醸成に効果を発揮する「PBLプログラム」を積極的に推進していきたいと考えております。



実際に店舗を見学し、情報を収集

## 充実のATOMIインターンシップ ～就職部 就職課～

近年の就職活動において確実に定着してきたインターンシップ、参加する学生も増加傾向にあります。

このような環境の中、就職課主催「ATOMIインターンシップ」が8月上旬から9月下旬まで57ヶ所の企業・自治体・団体の協力により、延べ121名の学生が参加して実施されました。

ATOMIインターンシップは、学生の自己決定に基づいて納得できる就職をするために職業観を養うこと、実務経験を通して将来の生き方・働き方を考えることを目的とし、就職支援プログラムの一環として、平成10年以降、毎年実施しています。単位制のインターンシップを行っていない文学部の学生を中心に、社会で働く機会を提供しています。

対象は全学部全学科の1～3年生と幅広く設定しています。今年の傾向で特筆すべき点として1・2年生の参加者が大幅に増加したことがあげられます。これもひとえにインターンシップが定着していることの表れであると言えるでしょう。

インターンシップでは、業務の見学や実践はもちろんのこと、社員との懇談会の機会を設定し、明治記念館での実習の様子  
ていただくこともあり、これらを通じて仕事の理解を深め、自分自身の適性を確認する機会になりました。また、職場の様子や社員の働き方などを見聞きすることもできたようです。学生の中には、努力すべき方向性が明確になったという者もあり、今後の学習意欲が向上したようです。他大学の学生との交流もあり、大きな刺激になったのではないのでしょうか。



明治記念館での実習の様子

## 平成30年度 アカデミック・インターンシップの実施報告 マネジメント学部長 宮崎 正浩

マネジメント学部では、2年次の必修科目として夏休み期間中の2週間(実働10日間)、全員が企業や地方自治体などで就業体験を行う「アカデミック・インターンシップ」に参加します。

この目的は、授業で学ぶマネジメントに関する理論を発展させ、社会人として必要とされるマインドとスキルを身に付け、今後のキャリアや学修の方向性を明確にすることです。

学部創設時から実施しているこのインターンシップは、本年度で15年目を迎えました。

今年度は、学部生293人が参加します。その準備のため、6月には社会人マナーの専門家を講師とする「マナー講座」に参加して挨拶や名刺交換の仕方などを実習し、7月には「キャリアデザイン講演会」に参加して3,4年生の先輩からの具体的なアドバイスを受けました。さらに、教員からの指導の下で履歴書と誓約書を作成・提出し、事前訪問も実施しました。

このような準備を経て、8月から順次インターンシップに参加しています。今年度の派遣先は合計134団体です。参加した学生には、インターンシップを通じ、社会で働くことの意義を理解し、将来の方向性を明らかにして、3,4年生の専門的な学びや就職活動への積極的な取り組みにつなげていくことを期待しています。



マナー講座(名刺交換の様子)



インターンシップ(事務打ち合わせ)

## 平成30年度 観光コミュニティ学部学外実習実施報告 — インドネシア海外インターンシップに関して — 観光コミュニティ学部観光デザイン学科 准教授 村上 雅巳

観光コミュニティ学部では2年次の必修科目として「基礎ゼミナール」を設置し、授業の一環として学生自らの関心領域、今後学ぶ専門領域と関連性の高い分野での学外実習(インターンシップ)を行っています。近年は海外に目を向ける学生も多く、海外での学外実習、インターンシップに取り組む例も増えていきます。本年はインドネシア、ハワイ、台湾、マレーシアにおいてインターンシップを行い、全部で約40名が参加、自らの学びに結びつくヒントを得るとともに、海外に出て視野を広げるという成果をあげました。その中からインドネシア・ジャカルタで開催された第18回アジア競技大会におけるインターンシップについてご紹介します。

このプログラムのテーマはスポーツ観光、アジア競技大会を通じてスポーツ観光やスポーツビジネスに日本企業がいかに関わり戦略的な取り組みをしているかを実践的に学ぶという狙いで、観光コミュニティ学部生10名が参加しました。また、ジャカルタ入りする前には横浜で開催された「全国小学生陸上競技大会」の運営、特に旅行会社が担当輸送や宿泊に関する就業体験をしてから現地に入りました。

スポーツ観光は「する、観る、支える」という3分野から成り立っており、今回は主に観戦と支える分野に関して旅行会社や飲料メーカー、スポーツ用品メーカーなどの日本企業の活動に触れ、実際に現地を訪ねなければ感じ得ない経験や感動を得ることができました。

参加した学生からは「現場を知ることができました」、「スポーツ観光は東京オリンピックに向けてますます盛り上がっていくと感じました。時間が合えば東京オリンピックのボランティアに参加したいです」といった声が上がっていました。



日本のスポーツ用品メーカーの現地ゲストハウスを訪問

# 国際交流活動の紹介

## 平成30年度夏期海外研修終了報告

平成30年度夏期海外研修が実施されました。イギリス（参加者：14名、期間：8月4日～9月3日）、アメリカ（参加者7名、期間：9月2日～9月26日）、フランス（参加者：5名、期間：8月6日～9月4日）、台湾（参加者：3名、期間：8月6日～8月25日）のいずれの研修とも、参加した学生全員が有意義な時間を過ごし、無事に帰国しました。



### スターリング大学（イギリス）での研修を終えて

文学部現代文化表現学科 3年 大矢琴音

当初は自己紹介やお金の使い方など、不安なことが多くありましたが、毎日が新しい発見で、充実した日々を過ごすことができました。授業は勿論のこと、他大学の学生達との交流やグラスゴーやネス湖への課外活動など、楽しかった思い出ばかりです。語学力の向上、英語への関心が深まるとともに、異文化に触れたこと、日本文化を発信したこと、料理や洗濯といった自己管理能力を見直せたことも良かったと思います。サポートして下さった全ての方々に感謝するとともに、この研修で得たことを今後の生活に活かしていきたいと思えます。



### ローワーコロンビアカレッジ（アメリカ）での研修に参加して

※研修中に書かれた記事です。

文学部コミュニケーション文化学科 1年 渡辺ありさ

私は、今回の研修にあたり「英語力の向上」という目標を掲げました。現地の英語の授業を受けてみると、日本よりも発音やアクセントに重きを置いている印象がありました。そのため、普段通りに話すと通じないこともあります。これらの英会話における重要性を痛感しました。また、今知っている言葉を使って簡潔に伝えるほうが伝わりやすいということにも気付きました。これらを大切に、自ら積極的にコミュニケーションをとりたいです。

研修自体はまだ日数があるので、上記のこと以外にもたくさんのことを吸収して帰国したいと思えます。



### 西部カトリック大学（フランス）での研修を終えて

文学部人文学科 2年 豊田未森

私にとって初めての海外経験であり、初めての体験ばかりでした。研修当初はあいさつや慣れない文化の違いに戸惑いましたが、フランスで生活するうちに少しずつ慣れていくことが出来ました。授業内容をすべてフランス語で学ぶことは、慣れるまで頭が熱くなるほど大変でしたが段々と理解できるようになっていきました。日本で学んだ内容でもフランス語で学ぶと難しく感じる部分もあり、言語の大切さ、学ぶ意味を感じました。1か月という期間は長いようで短く、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。



### 国立政治大学（台湾）での研修を終えて

文学部現代文化表現学科 3年 寺田彩乃

大学2年生の時に、授業で台湾の歴史や文化を学んだことをきっかけに、台湾の文化や習慣に触れてみたいと思うようになり、研修に参加しました。食文化では外食文化が盛んで、早朝からやっている飲食店や夜市などの文化に触れました。私が魅了されたのは、何といたって台湾の方々の温かい心です。駅で切符を買うのに困っている私たちを助けてくれた方がいます。チューターの学生さんも親身になって支えてくださいました。台湾のみなさんの優しさは、深く心に刻み込まれました。言語の勉強を頑張り、世界の人々と一緒に仕事をしたいです。



### 《春期海外研修のご案内》

本年度も春休み期間中に春期海外研修を実施します。説明会、参加者募集は10月に行いますので、興味のある方はお早めに国際交流課へお問い合わせください。

《お問合せ》 国際交流課

TEL : 048-478-3334 E-mail : d-kokusai@atomi.ac.jp

### 《研修先》

研修先	言語	期間
イギリス 国立スターリング大学	英語	2月中旬～3月下旬 5.5週間
アメリカ ローワーコロンビアカレッジ	英語	2月中旬～3月中旬 3.5週間
ドイツ ミュンヘン大学	ドイツ語	2月中旬～3月中旬 4週間

## ゼミ紹介

## 矢島ゼミ(日本美術史)

文学部 人文学科 教授 矢島 新

日本美術を研究するゼミです。扱う範囲は縄文土器から現代美術までOKですが、やはり近世から近代にかけての絵画が人気です。なかでも円山応挙や歌川国芳などが描いたかわいい動物の絵、鈴木春信や葛飾北斎などの錦絵、酒井抱一の優美な花鳥画、妖怪絵巻や幽霊画、月岡芳年の血みどろ絵、上村松園の美人画などは、これまで多くの学生が卒論に取り上げています。自分が好きな作品や作家の魅力を発表する中で、プレゼンテーション力が身につくはず。他の人の発表を聞いて、自分が知らない作品や異なる感性に出会うことも、自分の器を広げてくれるでしょう。

インターネットで手軽に画像が手に入る時代ですが、本物の作品を見て感動する経験は何より大切です。ゼミでは折に触れて希望者と展覧会等に出かけ、作品を前に語り合う機会を設けています。自由参加ですが、夏休みには京都や奈良に足を伸ばすこともあります。暑い最中での旅行となるので大変ですが、仲間とともに寺社をめぐり、仏像や襷絵を鑑賞するのは、得がたい経験になるでしょう。



夏の研修旅行(京都国立博物館にて)

## 塩月ゼミ(文化人類学)

観光コミュニティ学部 観光デザイン学科 教授 塩月 亮子

塩月ゼミでは、文化人類学の観点から異文化を理解すること、及び異文化を鏡として自文化を知ることを目指しています。その際、フィールドワークを重視し、実際に現地を訪れ、インタビューや参与観察等を行うことにも力を注いでいます。

具体的には、2年生では箱根や沖縄、台湾等で6日以上 of 学外実習を行い、現地の文化や歴史、観光について学びます。3年生では東京ディズニーランドや日本橋をフィールドワークし、異文化と自文化の表象のされ方や民族アイデンティティ等について考察します。4年生では、各自のテーマに合わせた卒業論文作成のための理論や分析手法の再確認を行い、研究の深化を図っています。

また、視野を広げるため、他大学の学生や教員との交流も頻繁に行っています。先日は、日本に短期留学しているテンブル大学の学生たちと一緒に浅草を巡り、日本文化を英語で紹介したり、アメリカ社会(銃や奨学金問題等)に関する意見を交わしたりして、異文化と自文化双方を深く知る機会を得ました。

これからも、ゼミを通して自文化に精通した、国際社会に通用するような学生を育てていきたいです。



テンブル大学の学生たちと浅草雷門で

## 天海ゼミ(食ビジネス)

マネジメント学部 生活環境マネジメント学科 准教授 天海 弘

本ゼミでは、社会環境や生活環境の変化に対応した、新たな食への提案を行っていくことを狙っています。学生自らが様々な視点から調査・分析・考察することで、食ビジネスに関わる新たな企画や提案などを模索していきます。

2年生では食生活全般の基礎知識を習得するために、まずテキストを使って食の問題や課題について幅広く学習します。その上で、食ビジネスの研究として飲食店舗の開業演習をグループワークで実施し、事業計画の枠組みを習得します。3年生ではコンセプト立案を中心に各種分析を組み合わせた商品企画演習をグループワークで実施し、企画の枠組みを習得します。今年は本学と包括的連携協定を締結している長野原町の要請を受け、9月に現地を訪問し高原野菜の販売促進のための企画提案を行いました。4年生はこれらの経験を生かして、主に食に関連した卒業論文・卒業研究の執筆にあたります。

これらの活動を通して食の重要性や多様性への理解を深めることで、卒業後の社会生活で役立てていけるよう指導しています。

アグリフードEXPO東京2018  
視察/ビッグサイトにて

## 新井ゼミ(臨床心理学科)

心理学部 臨床心理学科 講師 新井 雅

不登校やいじめ、非行、学級崩壊、虐待、発達障害への対応など、近年の学校教育を巡る諸問題は複雑化・多様化しています。本ゼミでは、学校や家庭における子どもの問題行動、心身の不調、不適応問題に対する理解と心理教育的な援助の方法について学びます。学生には学校心理学やスクールカウンセリング、臨床心理学にかかわる図書や資料、論文を読んで発表してもらったり、グループワークやロールプレイ、架空事例を通して心理援助の方法について体験的に学びを深めてもらっています。

さらに、これらを基礎としながら、学生自身の興味・関心に応じたテーマに沿って、卒業論文につながる心理学研究を行っていきます。学生一人ひとりが、子どもたちの豊かな成長・発達につなげるための心理教育的援助とは何かについて熱心に検討しています。



## 跡見花蹊記念奨学生表彰

平成30年6月22日(新座キャンパス)および平成30年6月26日(文京キャンパス)に学業奨励賞として跡見花蹊記念奨学生75名が表彰されました。

奨学生は前年度の学業成績上位者から選考され、表彰状と奨学金(授業料の1学期分相当額)が支給されました。

### 学部2年生

●文学部人文学科

木下 千里 久保谷 千春 小峰 理恵  
高橋 舞 森田 紗映子

●文学部現代文化表現学科

中山 怜香 永井 光 横堀 翔子

●文学部コミュニケーション文化学科

田木 優有香 松尾 咲希 山田 梨紗

●文学部臨床心理学科

石川 柚子 岩根 由佳 乙部 萌

林 玲

●マネジメント学部マネジメント学科

宇佐美 凜 加文字 日香 早乙女 優姫

早坂 絵美 増淵 彩花

●マネジメント学部生活環境マネジメント学科

石田 佳菜子 塚本 有里

●観光コミュニティ学部観光デザイン学科

大河原 梓 岸野 若葉 末續 空

曾田 優香

●観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科

曾田 真優 牧野 杏珠

### 学部4年生

●文学部人文学科

赤石 しづく 伊藤 舞星 萩原 真実  
細谷 みいる

●文学部現代文化表現学科

大上 久美子 野本 真優 米倉 夏鈴美

●文学部コミュニケーション文化学科

寺坂 美紀 野口 晴代 古園 あかり

●文学部臨床心理学科

松本 真依 宮部 瞳 余川 茉祐

●マネジメント学部マネジメント学科

井上 舞 齊藤 梨沙 橋本 明香里

古谷 優実

●マネジメント学部生活環境マネジメント学科

小川 真未 片淵 知帆子

●観光コミュニティ学部観光デザイン学科

井本 芽衣 竹澤 有希 船橋 美咲

●観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科

湯浅 葉月

### 学部3年生

●文学部人文学科

大月 友乃 福田 紗菜 望月 悠奈

●文学部現代文化表現学科

坂從 亜未 見田 智絵里 山本 萌子

●文学部コミュニケーション文化学科

狩野 由里 菊地 真央

●文学部臨床心理学科

飯田 翔子 菅 佳菜美 遊佐 千晶

●マネジメント学部マネジメント学科

加藤 文音 田中 優衣 土田 紗耶花

磯野 真衣 小川 華奈

●マネジメント学部生活環境マネジメント学科

阿部 佑紀

●観光コミュニティ学部観光デザイン学科

伊藤 早穂 梅津 佳世 三上 春加

●観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科

北村 菜摘

### 大学院2年生

●人文科学研究科日本文化専攻

出口 夏子

●人文科学研究科臨床心理学専攻

渡邊 孝祐

●マネジメント研究科マネジメント専攻

青木 明子

## 跡見校友会一紫会大学院奨学生表彰

平成30年6月29日に学業奨励賞として3名の跡見校友会一紫会大学院奨学生が表彰されました。奨学生は前年度の学業成績上位者の中から決定し、表彰状と奨学金(授業料の一学期分の二分の一相当額)が支給されました。

### 大学院2年生

●人文科学研究科日本文化専攻

由利 雅子

●人文科学研究科臨床心理学専攻

小倉 真奈美

●人文科学研究科臨床心理学専攻

大橋 佳奈



跡見校友会一紫会  
大学院奨学生



跡見花蹊記念奨学生(新座キャンパス)



跡見花蹊記念奨学生(文京キャンパス)

## 学生会情報

学生会本部 会長 福井 菜々子

ごきげんよう。日増しに秋の深まりを感じる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

私たち学生会本部は、6月27日に「学生総会」を開催いたしました。平成29年度の決算報告、平成30年度の予算の審議を行い、全て承認されました。

新たに「学生生活向上委員会」も設立され、昨年度よりも学生の意見を大学へ届けやすくなることと思います。この委員会から学食プロジェクトチームを立ち上げ、学生コラボメニュー企画などに取り組んでいます。学生が望むメニューの実現ができるよう、日々奮闘中です。

そして6月26日、6月27日には文京、新座の各キャンパスで「学長との懇話会」を開催いたしました。笠原学長先生をはじめ、諸先生方にご出席いただきました。先生方と食事をしながら様々な意見交換ができる場となりました。先生方が学生のいる各テーブルを回ってくださり、学生とお話をしていく形でしたが、時間が限られていましたので、学生は話し足りない様子でした。次回はもっとたくさんのお話ができるよう、企画内容をよりよいものにしたいと思います。

この「学長との懇話会」は今年度が初の試みでしたが、参加学生からは、「とてもためになった」との声を多数いただき、私自身も大変嬉しく思います。参加学生の皆様が「先生方ともしっかりとお話をしたかった」と言ってくださったことは、私にとって今年度一番の喜びです。初開催にも関わらず、先生方、参加学生ともに満足していただける懇話会になったのは、協力してくださった教職員の皆様、当日お越しくくださった皆様、学生会役員のおかげだと思います。誠にありがとうございました。反省点はいくつかあるものの、総合的にとても良い雰囲気で行うことができたのは、学生会本部として本当に良い経験になりました。次年度以降もより良い会を開けるよう、また、このような機会を更に増やせるよう後輩にしっかり引き継ぎを行い、役員一同努力してまいります。

さて、生まれ変わったのは「学長との懇話会」だけではありません。毎年開催している「和食・洋食テーブルマナー講習会」も、今年は例年と少し形を変えての開催になる予定です。学生会全体で様々なことに挑戦する一年となり、さらに成長できれば良いと思います。これからも頑張っていきますので、引き続きよろしくお願ひいたします。



学生総会の様子(文京キャンパス)



学長との懇話会(文京キャンパス)

## 第51回 紫祭「秋桜」開催

11/3(土・祝)~11/4(日)

紫祭実行委員長 中島 芽衣

ごきげんよう!昨年無事に第50回を終え、今年は第51回の紫祭です。今年のテーマは「秋桜」です。花言葉で「乙女の真心」「愛情」という意味があります。参加団体全員が企画のひとつひとつに真心を込めて、第51回の紫祭を盛り上げたい、一生懸命取り組みたいという想いが込められています。私たちは紫祭を成功させるために、各団体や実行委員は夏休みも大学に通い準備してきました。それぞれが紫祭のために与えられた仕事に一生懸命取り組み、皆様を迎える準備をしっかりとしておくことで紫祭が成功します。今までの紫祭も先輩たちの努力によって受け継がれてきたと強く思います。これからも大切に守り続けていかなければいけないと感じています。

今年はパンケーキやタピオカなどの食品を出店する団体が16団体、写真部やウィンドオーケストラ部などの展示や発表を行う団体が27団体と、たくさんの団体が参加します。野外ステージも、例年行われているフィーリングカップルやサークル対抗をはじめ、今年からの新企画でジェスチャーゲームや味覚を使ったゲームを行います。在校生はもちろんのこと、誰でも気軽に参加することができるので、見るだけではなく是非参加してみてください。今年の紫祭も、見どころがたくさんあるものになっているので楽しみにしてください。紫祭実行委員一同、皆様のご来場をお待ちしております。



野外ステージの準備

## 平成30年度新規採択「科学研究費補助金にかかる研究内容の概要」

## 研究課題名「文献による日本語アクセント史研究の総括と展開」

文学部人文学科 准教授 加藤 大鶴

日本語のアクセントについての史的な研究は、方言アクセントと文献資料に記載されたアクセントの両面から進められてきました。このうち文献資料による近代的なアクセント研究は、文献学や芸能史などの成果を取り込みながら、約100年にわたる研究史を持ちます。本研究ではこうした研究史を現代の学問的到達点から批判的に総括し、本領域が発展していくための新たな起点を創出することを目的としています。3年間の期間で明らかにしようとするのは次の3点です。(1)文献による古代アクセント研究の蓄積を、それぞれの研究対象とした資料別に整理して批判的に検討し、現代の到達点を明らかにし

ます。(2)古代アクセント研究における重要なテーマ(中国原音声調と日本漢字音、声点と調値など)について、研究の現状を批判的に検討し、現代の到達点を明らかにします。(3)文献アクセント史研究から構築される古代アクセントを記述して、その観点から研究の現状を批判的に検討し、現代の到達点を明らかにします。あわせて、古代アクセント研究の応用的研究についても調査し、あらたな研究の方向性を模索します。本研究の成果は文献アクセント史における最新の入門書としてまとめ、本領域を新たに志す人に資すると同時に、本領域自体を質的に発展させることを目標としています。

## 研究課題名「日本語母語話者による英語の主語・動詞・時制に関わる文法規則の習得と使用」

文学部コミュニケーション文化学科 講師 穂苅 友洋

英語を第二言語とする学習者にとって、ある種の規則(例:動詞に付加する屈折形態素の使用)は、別の規則(例:時制節における明示的主語の使用)よりも習得が難しいことが知られています。しかし、なぜある規則は別の規則よりも習得が難しいのか、なぜ規則によって習得の難しさが違うのかという問いに対して統一した説明はなされていません。

本研究では、英語における a) 時制節での明示的主語、b) 時制の表示、c) 主語の人称・数に応じた(助)動詞の屈折、d) 否定節・疑問節における(助)動詞、e) 否定辞・頻度副詞の位置を取り上げ、これらの文法規則に対する日本語母語話者の

知識・使用を調査します。一見すると、これらの文法規則は無関係のようですが、生成文法(Chomsky, 1995ほか)の枠組みでは、これらはすべて機能範疇(Tense)に関わる規則であり、これらの規則に焦点を当てることで、ひとつの視点(すなわち、機能範疇T)から、学習者が持つ心的文法を統一的に説明・モデル化できます。こうした調査により、第二言語習得の仕組みの解明、ひいては、人間の認知機能の解明に貢献できるだけでなく、より応用的な活用として、日本語母語話者による英語の文法学習についても、各項目の難易度の違いやその原因といった新たな知見が提供できます。

## 研究課題名「文化政策における政策評価の制度、方法、指標に人文知を応用して構築する研究」

マネジメント学部マネジメント学科 教授 曾田 修司

私は、今年度から4年間をかけて標題に掲げた共同研究を行うグループ(研究代表:小林真理東京大学大学院人文社会系研究科教授)に研究分担者として加わることになりました。

この研究の背景にあるのは、2017年6月の文化芸術基本法の成立です。同法によって、文化芸術推進計画の策定が国に義務づけられました。今後、日本の文化政策には、目標管理と評価のプロセスが組み込まれることとなります。このとき、当然、文化政策の目的、主体、方法とは何かが問われることとなります。危惧されるのは、文化政策を何らかの政治的目的を実現するための手段として捉える考え方が重視されすぎることです。これに行政主体型の定量評価方式が無批判に適用される

と、文化の自律性が大きく損なわれる恐れがあります。文化は、従来、専門家が文化的価値を創造し、市民が文化そのものを広く享受する主体となるという社会的な広がりの中で生成し発展してきたという点に目を向けて文化政策のあり方を考える必要があります。

本研究では、多様な背景と専門性を持つ研究者が共同し、文化芸術の内容に関わるこれまでの人文科学的知(芸術論・批評)の蓄積を活用して、とりわけ、価値創造と文化多様性の尊重という観点を加え、今後の文化政策に関する評価を行うための方法と制度について研究を行います。

## 研究課題名「大学生の進路選択セルフ・エフィカシー情報源尺度の作成と新たな介入プログラムの開発」

心理学部臨床心理学科 講師 前場 康介

大学生を取り巻く進路や就職に係る問題は近年ますます複雑化・多様化し、その選択に困難を抱える学生が増えています。この現状には様々な要因が考えられていますが、その1つとして、自分の進路・職業選択に対する自信の喪失が挙げられます。進路選択セルフ・エフィカシーとは、「進路を選択・決定するにあたり、必要な課題をどの程度成功裏に達成することができるかについての見込み感」(Betz, 2001)を指し、その向上に伴ってその後の進路選択行動が促進されると考えられてい

ます。

本研究では、セルフ・エフィカシーの向上に寄与する4つの主要な情報源に焦点を当て、その影響度を測定するための尺度の開発を目的としています。この尺度を用いることで、例えば男子大学生と女子大学生、もしくは大学1年生と3年生など、下位集団毎の情報源の特徴を明確にすることが可能になります。さらに、これらの特徴に基づいたテーラーメイド型の新たな介入プログラムを開発し、その効果検証を行います。

## 保護者説明会(文京会場・高崎会場)報告

今年度の「保護者説明会」は6月16日(土)文京会場(於文京キャンパス)、6月30日(土)高崎会場(於メトロポリタン高崎)にて開催し、両会場合わせて約510名の保護者の方々にお越しいただきました。昨年度は10月の開催でしたが、新年度の大学の取り組みや入学・進級後の様子をいち早くお伝えいたしたく、今年度は6月に変更したことで特に1年生の保護者の方の参加が圧倒的に増え、活気のある会となりました。

文京会場では想定より多くの保護者の方々にお越しいただき、全体説明会の会場であるプロッサムホールが満席となり、別教室での中継をご覧いただいた方々もおられましたこととお詫び申し上げます。全体説明会ではまず学長挨拶に始まり、副学長・各学部長をご紹介いたしました。次に学生生活について、教務部長と学生部長より成績通知書の見方や学生生活の詳細、学生の支援体制などについて説明し、特に1年生の保護者の方から大学の様子がよくわかって良かったという感想をいただきました。続いて就職・進路支援について、受付にてお渡しした「キャリアデザインガイドブック」をもとに就職部長より説明をいたしました。大学でこんなに細やかに就職支援をしていただいているということを知り安心した、という声が聞かれました。最後に国際交流について国際交流課長より、イギリス・スターリング大学、カナダ・ロイヤルローズ大学、アメリカ・ローワーコロンビアカレッジ、フランス・西部カトリック大学、台湾・国立政治大学、ドイツ・ミュンヘン大学での研修の様子をたくさんの写真と共に説明し、娘にも留学を勧めようと思う、という保護者の方もいらっしゃいました。

全体説明会終了後には希望者を対象に「各学科内容・履修関係」「学生生活(奨学金・クラブ活動等)」「国際交流」「就職・進路」の各ブースで個別相談を行いました。昨年度開催した「内定者と語ろう」コーナーは今年はまだ6月で4年生の内定者がいないため行いませんでしたが、「就職・進路」のブースは毎年盛況で、就職や進路に対する保護者の方の関心の高さがうかがわれます。他には「各学科内容・履修関係」において、取得単位や成績に関する相談が多くありました。また、待ち時間に参加できる「キャンパス見学ツアー」も学生の案内で随時開催され、好評でした。

高崎会場は基本的にキャンパス見学ツアーがないことを除いては文京会場と同じ内容で開催しましたが、就職相談ブースには群馬県若者就職支援センター「ジョブカフェぐんま」のキャリアカウンセラーの方にお越しいただき、Uターン、Iターン就職の相談を担当していただきました。どの個別相談ブースも常に保護者の方が座っていらっしゃり、じっくりと相談をしていただけたのではないかと思います。

次年度以降も保護者説明会を継続して開催する予定ですので、多くの方にご参加いただければと思います。



文京会場の全体説明会

### 名誉教授のご紹介(平成30年)

平成30年に名誉教授に就任された先生方をご紹介します。

- ① 名誉教授就任年月日                      ② 本学に就任した年月日  
③ 本学を退任した年月日または現職      ④ 研究領域



#### 山崎 一穎 先生

- ①平成30年4月1日  
②昭和45年4月1日  
③学園 理事長  
④日本近代文学(森鷗外)



#### 山田 徹雄 先生

- ①平成30年4月1日  
②昭和54年4月1日  
③学園 常務理事・事業理事  
④ドイツ・オーストリア  
国境地域の経済



#### 岩本 憲司 先生

- ①平成30年4月1日  
②昭和57年4月1日  
③平成30年3月31日  
④中国古典学



#### 村越 行雄 先生

- ①平成30年4月1日  
②平成元年4月1日  
③平成30年3月31日  
④言語哲学



#### 福田 博同 先生

- ①平成30年4月1日  
②平成10年4月1日  
③平成30年3月31日  
④図書館情報学



名誉教授と学長以下大学役職者

## 防災への取り組みについて

9月20日(木)に、跡見学園総合防災訓練が行われました。本学では東日本大震災以降、防災に対する取組みを強化しており、総合防災訓練を実施するようになって今年で9回目となります。今回は、より実践的な事態を想定したシナリオを作成し、地震発生から避難完了までの時間短縮に取り組みました。文京・新座キャンパスとも負傷者対応を想定し、救護所への担架による搬送訓練を実施。新座キャンパスでは、クラブ活動中の学生も数多く参加しました。雨天により消火訓練の場所の急遽変更もありましたが、それでも消防署の方に消火器の使い方を教わりながら、真剣に消火活動に取り組む学生の姿が印象的でした。

また、文京キャンパスにおいては、訓練終了後に妊産婦・乳児救護所開設訓練(東京都助産師会・文京区・大塚警察署との共同開催)を行いました。東日本大震災の際、避難所生活において大勢の中での生活のため、乳幼児へ大きなストレスがかかってしまうなど、妊産婦・乳幼児ケアの必要性が浮き彫りになりました。このような事態の対策の一つとして、2012年9月に全国で初の取組みとして、災害時に妊産婦・乳幼児を受け入れ、キャンパスの一部を救護所として提供する「災害時における母子救護所の提供に関する協定」を文京区と締結。2013年9月からは毎年、学内に妊産婦・乳児救護所を開設する訓練を実施し、今年で6回目となります。

当日は、本学学生寮「メゾン音羽」の寮生をはじめ、学生

も訓練に参加。学生自身が妊産婦の大変さを理解するため、約6Kgある妊婦体験ジャケットを着用し、赤ちゃんの人形を抱いて構内を歩くなどの妊産婦体験を行いました。

区内の妊産婦の方を対象とした訓練では、学生は2号館1階エントランスに設置した受付ブースで妊産婦の健康状態を確認したり、3階教室に症例別に設置した救護所への案内誘導を行いました。訓練終了後には、学生向けに防災への備えや妊産婦への配慮の心得など日常生活にも活かせる知識を学ぶグループワークを実施し、女性として発災時に必要な心構えを学びました。普段接する機会の少ない妊産婦の方々との訓練や交流を通し、学生は、妊産婦の心理に寄り添った接し方やサポート方法を習得する良い機会となりました。



受付を担当する学生



妊婦体験をする学生

## 新入生向けに「図書館の利用法」の体験型オリエンテーションを開催

図書館長 矢島 新

図書館では、全新生を対象に大学図書館の仕組みや上手な利用法を知ってもらうために、毎年4月5月の二か月間、体験型オリエンテーションをゼミ単位で実施しています。この取り組みは、1年次「プロゼミⅠ」の一環で行われるものです。

講座は図書館職員により「大学図書館の魅力と機能」と題するプレゼンテーションを全体授業で実施。その後、少人数グループに分かれ、図書館内各所を巡るスタンプラリー形式のツアーを行います。グループワークは5名単位で相談しながらスタンプポイントをめぐり、その場で図書館職員から説明を受けたり、アクションを行って図書館を体感します。普段は入れない貴重書庫を見学するスタンプポイントや、初めて見るマイクロフィルムを虫眼鏡で見たり、退館ゲートでのアラートを体験したりなど楽しめるプログラムになっています。

さらに、蔵書検索の課題を各自図書館蔵書検索でそれぞれ検索し、図書館内の書架に行き実際に本を持って来る実習まできめ細かく行われました。

また、各ゼミ独自の課題を担当教員が出して、それに答えるなど、「プロゼミⅠ」に発展していくスタート地点の役割もはたしています。

このオリエンテーションは知の宝庫である大学図書館を積極的に活用し、充実した学生生活を送ってほしいとのねらいで毎年開催されているものです。新入生にとって図書館の魅力、利用法を実体験し今後の利用につながる貴重な機会となりました。



図書館内スタンプラリーの様子

## CLUB Now

### かるた部

かるた部 部長 黒川 はづき

皆様ごきげんよう。かるた部です！私たちがどのような活動を行っているのか、どのようなところが魅力なのかをご紹介します。

私たちは普段「ちはやふる」や「映画名探偵コナンから紅の恋歌」で有名な「競技かるた」の練習を行っています。そして部員の半数以上は初心者ですので、未経験者でも大丈夫！また、学園祭である「紫祭」はもちろん、去年は桶川で行われた「県民の集い」、今年の1月には文京区の中学校、3月には大学で行われた「桜まつり」で実演いたしました！様々な場所で実演をさせていただけることも魅力の一つです。また、私たち跡見学園女子大学かるた部は、他のかるた部と違う活動も行っています。それは、跡見学園女子大学図書館が誇る約3000点の百人一首に関する資料を広める活動をしていることです。これらのコレクションは残念ながらあまり知られていません。せっかくのコレクションをもっと多くの方に知ってもらおうとお手伝いさせていたいています。興味がある方は是非かるた部へお越し下さい！



競技かるたの練習

# 平成31年度 入学試験日程

## 入試 TOPICS

- ◆AO入試は「一般型」、「英検型」、「講義型」の3種類実施いたします。
- ◆一般入試A方式2日目(1月28日)は、文京キャンパスの他、6つの学外会場でも受験可能です。  
(仙台、新潟、水戸、宇都宮、高崎、千葉)
- ◆一般入試A方式とセンター試験利用入試I～Ⅲ期でお得な併願割を導入します。  
(詳細は入学試験要項をご覧ください。)
- ◆全ての一般入試(センター試験利用入試含む)はWeb出願のみとなります。
- ◆大学入試センター試験利用入試は、すべての出願期において、合否判定に高得点の2教科2科目を使用致します。

## 入試日程

**【大学】** 全学部全学科共通 ※詳細は平成31年度入学試験要項にて確認してください。

入試方式		出願方法	出願期間(締切日消印有効)		試験日	試験科目・選抜方法	合格発表日
推薦入試	公募推薦入試	11月期	郵送のみ	平成30年10月24日(水)～11月2日(金)	平成30年11月11日(日)	書類審査、面接	平成30年11月15日(木)
		12月期	郵送のみ	平成30年11月26日(月)～12月3日(月)	平成30年12月9日(日)		平成30年12月13日(木)
	跡見校女子推薦入試	郵送のみ	平成30年10月24日(水)～11月2日(金)	平成30年11月11日(日)	書類審査、面接	平成30年11月15日(木)	
AO入試	AO入試(一般型)	11月期	郵送のみ	平成30年10月29日(月)～11月6日(火)	出願後の面接や試験はありません。	課題レポート*、面接	平成30年11月15日(木)
		12月期	郵送のみ	平成30年11月26日(月)～12月4日(火)			平成30年12月13日(木)
	AO入試(英検型)	郵送のみ	平成30年11月26日(月)～12月3日(月)	平成30年12月9日(日)		レポート、面接	平成30年12月13日(木)
一般入試	A方式		郵送	平成31年1月4日(金)～1月18日(金)	平成31年1月27日(日) 平成31年1月28日(月)	国語、英語、地歴(ただし、日本史、世界史のうちから1科目)、数学のうちから2教科にわたり2科目。ただし、地歴と数学の組み合わせは不可。	平成31年1月31日(木)
	B方式		窓口	平成31年1月21日(月) 10:00～16:00			
	B方式	B1方式	郵送	平成31年1月4日(金)～1月28日(月)	平成31年2月3日(日)	国語および英語、2科目	平成31年2月7日(木)
			窓口	平成31年1月29日(火) 10:00～16:00			
		B2方式	郵送	平成31年1月28日(月)～2月14日(木)	平成31年2月20日(水)		平成31年2月23日(土)
			窓口	平成31年2月15日(金) 10:00～16:00			
	C方式		郵送	平成31年2月12日(火)～2月25日(月)	平成31年3月2日(土)	国語および英語、2科目(国語は一部記述式を含む)	平成31年3月5日(火)
	C方式		窓口	平成31年2月26日(火) 10:00～16:00			
	大学入試センター試験利用入試	I期	郵送	平成31年1月4日(金)～1月30日(水)	大学入試センター試験 平成31年1月19日(土) 平成31年1月20日(日)	高得点の2教科2科目を合否判定に使用	平成31年2月7日(木)
			窓口	平成31年2月1日(金) 10:00～16:00			
II期		郵送	平成31年1月28日(月)～2月15日(金)	平成31年2月23日(土)			
		窓口	平成31年2月18日(月) 10:00～16:00				
III期		郵送	平成31年2月18日(月)～3月6日(水)	平成31年3月14日(木)			
		窓口	平成31年3月7日(木) 10:00～16:00				
特別選抜入試	帰国生・社会人入試	郵送のみ	平成30年10月24日(水)～11月2日(金)	平成30年11月11日(日)	面接	平成30年11月15日(木)	

※ 英検型は不要

**【大学院】** 全研究科全専攻共通 ※詳細は平成31年度入学試験要項にて確認してください。

入試方式		出願方法	出願期間(締切日消印有効)		試験日	試験・選抜方法	合格発表日
一般・社会人[後期試験]		郵送のみ	平成31年1月25日(金)～2月5日(火)	平成31年2月11日(月・祝)	平成31年度入学試験要項にて確認してください。	平成31年2月14日(木)	
一般 ※マネジメント研究科のみ	3月期	郵送	平成31年2月18日(月)～3月6日(水)	平成31年3月12日(火)		平成31年3月14日(木)	
		窓口	平成31年3月7日(木) 10:00～16:00				
AO入試	第一期	郵送のみ	平成30年11月26日(月)～12月3日(月)	平成30年12月9日(日)		平成30年12月13日(木)	
	第二期	郵送のみ	平成31年2月12日(火)～2月25日(月)	平成31年3月2日(土)	平成31年3月5日(火)		

## ◆ 行事予定 ◆

10月	1日(月)	秋学期通常授業開始
	1日(月)~4日(木)	秋学期1次履修登録申請期間
	9日(火)・10日(水)	秋学期2次履修登録申請期間
	13日(土)~15日(月)	履修登録訂正期間(窓口受付)
11月	2日(金)	紫祭準備日
	3日(土・祝)~4日(日)	紫祭
	5日(月)	紫祭後片付日
12月	13日(木)~20日(木)	卒論提出期間
	27日(木)~1月5日(土)	冬季休業
1月	7日(月)	通常授業開始
	8日(火)	創立記念日(休講)
	19日(土)・20日(日)	大学入試センター試験(休講)
	23日(火)~2月2日(土)	授業評価期間
	28日(月)	入試(休講)
	30日(水)	補講日
2月	4日(月)~9日(土)	秋学期定期試験期間
	12日(火)・13日(水)	秋学期定期試験予備日・追試験日
	14日(木)~28日(木)	補講期間(集中講義等有)
3月	1日(金)~30日(土)	春季休業(集中講義等有)
	4日(月)	卒業・修了発表
	11日(月)	進級発表
	18日(月)	卒業式

【新座キャンパス】  
秋学期から更に充実!!

秋学期から施設面で以下の点が更に充実します。

- 新座キャンパスの下記施設のプロジェクトターが、大画面に更新されました。また、全てハイスペックな機器に入替をしましたので、今までよりも鮮明に投影されます。



## 更新場所

花蹊メモリアルホール、2号館(2171講義室)、3号館大教室(3155・3156・3256各講義室)

- 大学バス1台増車により、10月1日から大学バスダイヤが改正され、本数が増えます。

また、朝の混雑時に観光バスを臨時に増発運行し、輸送力をアップします。  
新しいバスダイヤはHPをご覧ください。



## 資料館コレクション

## 虎の威を借る狐

桂ゆき(1913-1991)

制作年 1956年 リトグラフ



エディション番号: 71/100

Y.Katsura

桂ゆき(本名=雪子)は、府立第五高等女校在学中に日本画を学び、卒業の2年後(1933年)、東郷青児らが主宰する神田駿河台のアヴァンギャルド洋画研究所で前衛的表現に開眼します。帰国したばかりの藤田嗣治から、「無関係な事物をむすびつける」コラージュの原理と言うべき「『雨傘とミシンが解剖台の上で、ひょっこり出会ったように美しい』というロートレアモンの詩のひとふし」(桂ゆき)を教えられるのはこの頃のことでした。

《虎の威を借る狐》と題された本図でも、虎の頭部となった縄(藁)と胸部が奇妙な隣接関係のなかに置かれ、「解剖台の上の雨傘とミシン」の出会いに譬えられるコラージュの手法が明確です。忘れてならないのは、版画なので当然と思われるでしょうが、実際の縄(藁)をコラージュしているわけではないということです。前年に制作された同名の油彩画においてもことは同様で、本物と見まがうように藁を細密に描きだしているという点に、じつは「コラージュ作家」桂ゆきの面目が存しているのです。

《虎の威を借る狐》には政治的な風刺が込められているとする説が有力ですが、同じ縄を母親と子どもの頭部に見立てた《母と子》という油彩(1955年)が存在することや、自分を狐に擬して語る作者の文章を参照するならば、むしろ「親のかけに隠れつつ自立できない子ども」を暗示しているとも考えることも不可能ではないと思います。

(花蹊記念資料館館長 村田 宏)

## ● 編集後記 ●

学報95号は、春から夏にかけてさまざまな学生・先生方の活動を紹介しています。特にインターンシップという就業体験に関して、少しでも早く社会に触れる学生の姿を例年よりも多く取り上げました。

今は秋。11月には第51回紫祭「秋桜」が行われます。「秋桜」といえば、新座キャンパスには10月に咲くサクラ「十月桜」が植えられています。学園祭でお花見ができるかもしれません。皆様のご来場を心よりお待ちしております。